


琉球大学学術リポジトリ

明治大学における「教育の場」としての図書館の積極的活用 － 図書館員の役割 －

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2008-10-16 キーワード (Ja): 情報リテラシー教育, 特色ある大学教育支援プログラム (特色GP), 明治大学図書館 キーワード (En): 作成者: 飯澤, 文夫 (明治大学学術・社会連携部) メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/7507




「個」を強くする大学。
We strengthen the individual.

明治大学
MEIJI UNIVERSITY

講演会「情報リテラシー教育と図書館」
於琉球大学附属図書館 2008.10.10

**明治大学における「教育の場」
としての図書館の積極的利用
－図書館員の役割－**

明治大学学術・社会連携部 飯澤文夫
ma72001@mics.meiji.ac.jp



明治大学図書館
Meiji University Library

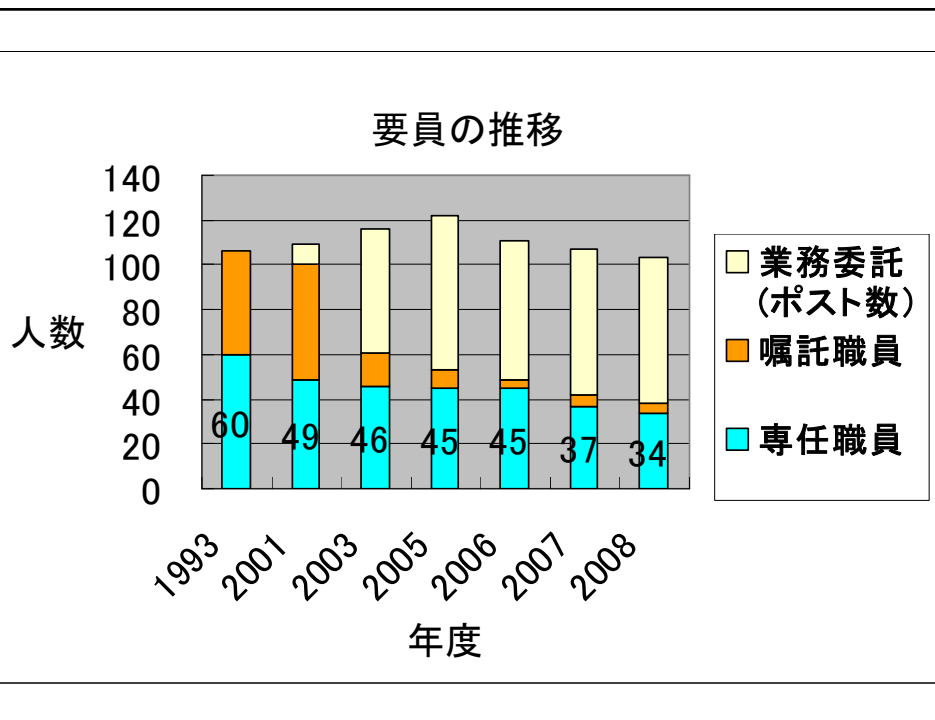
プログラム

- 1 明大図書館の置かれた現状
- 2 図書館員が授業に出講できる仕組み
- 3 図書館活用法における教・職の役割分担
- 4 エフォート －図書館リテラシー教育にかける業務量－
- 5 図書館員の養成
- 6 これからの図書館員の使命

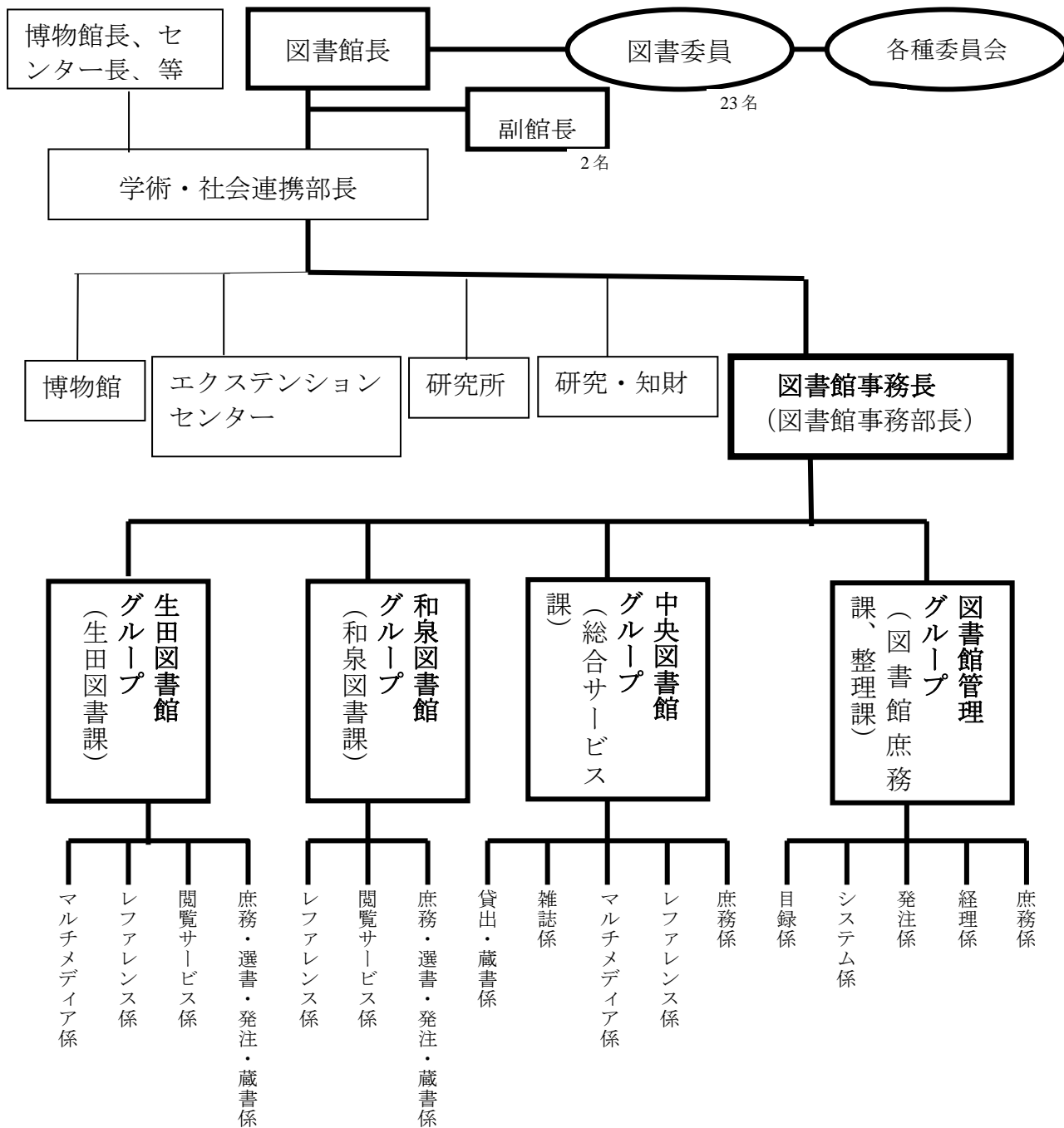
1 明大図書館の置かれた現状

- 開館日・時間、諸サービス
- 電子化
- **教育リテラシー業務**

- 図書費、図書館運営費
- 事務組織
- **専任職員**



図書館組織図



2 図書館員が授業に出講 できる仕組み



学部間共通総合講座

文理の壁を越え、知の旅へ

社会の制度や仕組みが大きく変化するなかにあって、
本学の教育理念・目的は「個性を大切にし自立心の強い人材を育成する」ことにある。

学部間共通総合講座は、この教育理念・目的に基づいたカリキュラムの編成をしている。

学部設置のカリキュラムを基礎としながら、なお学部や文理の枠を越えた学際的講義を学生諸君に積極的に提供することにより、幅広い学問的視野や問題発見能力、判断能力を培うことを主眼とするもの。

本学の全ての学生にとって有益となるテーマをそうした趣旨のもと多様な講座を設定。

- 1.地球市民講座
- 2.技術戦略とビジネス講座
- 3.現代メディア講座

4.キャリアデザイン講座

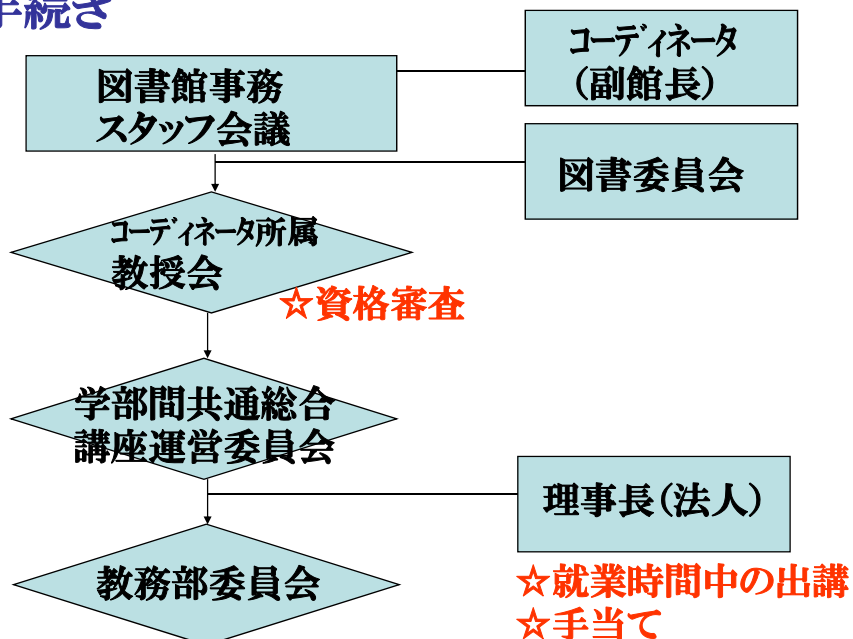
目的をもって学習することが大切な時代。人生と仕事についての基本を学ぶ

- 5.歴史・哲学講座

運営方法

- 本学教授陣に加え、広く学外からその分野の第一人者を講師として招聘
- 3～8名の講師が輪番制で時宜を得たテーマを適宜提供する「総合授業」として実施
- 各テーマごとに、各々の分野のエキスパートがリレー方式で講義を進め、結果として大きなテーマ(講座のタイトル)について総合的に理解
- 複数の講師から学ぶことにより、多角的なものの方を養える、教科書では学べないような多様な実地体験を聞けるといったメリット
- 卒業条件上の単位に算入。
- 2007年度履修者数は、約6,000名

手続き



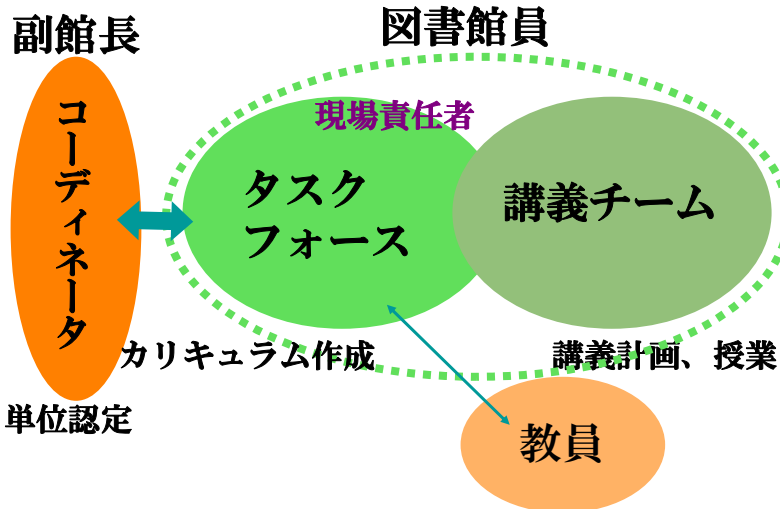
3 「図書館活用法」における 教・職の役割分担

教員

- ・ 図書館、書物への誘い
- ・ 論文指導

図書館員

- ・ 活用スキル



4 エフォート

「図書館活用法」等への図書館員の出講回数 (1回90分換算)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
活用法	22	42	82	110
ゼミツアー	143	212	223	255
出前講義	0	0	2	7
各種講習会	—	24	23	50
計	165	278	330	422

司書・司書教諭課程(兼任講師 3名)

- ・資料組織演習
- ・図書館コミュニケーション論
- ・書誌学

夏期司書講習(講師 5名)

- ・資料組織演習
- ・レファレンス演習
- ・資料特論(日本の書物)
- ・情報機器論
- ・大学図書館論

5 図書館員の養成

- 1 図書館スタッフデベロップメント(SD)プログラム
- 2 海外研修(1~2週間)
2007年度 アメリカ 2名
2008年度 4~5名予定(アメリカ 1名)
- 3 国内大学図書館視察
2008年度 5名予定
- 4 プログラム評価ワークショップ
2008年4月(1週間)、7月(2週間)

図書館スタッフデベロップメント(SD)
プログラム 実施風景写真

明治大学図書館職員スタッフデベロップメント(SD)プログラム

1. プログラムの目的

- ・特色ある大学教育支援プログラム(特色 GP)「『教育の場』としての図書館の積極的活用」の取組の充実を図るため、図書館職員の資質を向上させる高度な研修を行う。
- ・図書館職員の資質を向上させることで、長期的には学生への学習支援だけでなく、教員の多様な教育活動をサポートできる図書館職員を育成する。

2. プログラムの到達目標

- (1) 図解による表現技術を理解し、以後のセルフトレーニングにより学生に教授できるようになる。
- (2) プレゼンおよび話し方に関する技術を理解し、以後のセルフトレーニングにより授業で実践できるようになる。
- (3) 授業実践法およびカリキュラムデザインに関する知識・技術を理解し、以後のセルフトレーニングにより教育プログラムの企画・立案ができるようになる。

3. プログラム内容・講師・実施回数

●基礎編(各2回実施)

- (1) 図解表現技術(多摩大学, 久恒啓一教授)

久恒氏の代表作:『図で考える人は仕事ができる』, 『図で考える人の図解表現の技術』

- (2) プレゼン技術(藤沢晃治氏)

藤沢氏の代表作:『「わかりやすい説明」の技術』, 『「分かりやすい表現」の技術』

- (3) 授業実践法(名古屋大学, 中井俊樹准教授)

中井氏の代表作:『ティップス先生のカリキュラムデザイン』, 『ティップス先生からの7つの提案』シリーズ

4. 実施カリキュラム・場所

	9:00~12:00	13:30~16:30	場所
8月20日(水)		プレゼン技術①	明治大学図書館グループ閲覧室
8月29日(金)	授業実践法①	図解表現技術①	同上
9月5日(金)	授業実践法②	プレゼン技術②	同上
9月17日(水)		図解表現技術②	同上

6 これからの図書館員の使命



(2005.7、勁草書房)

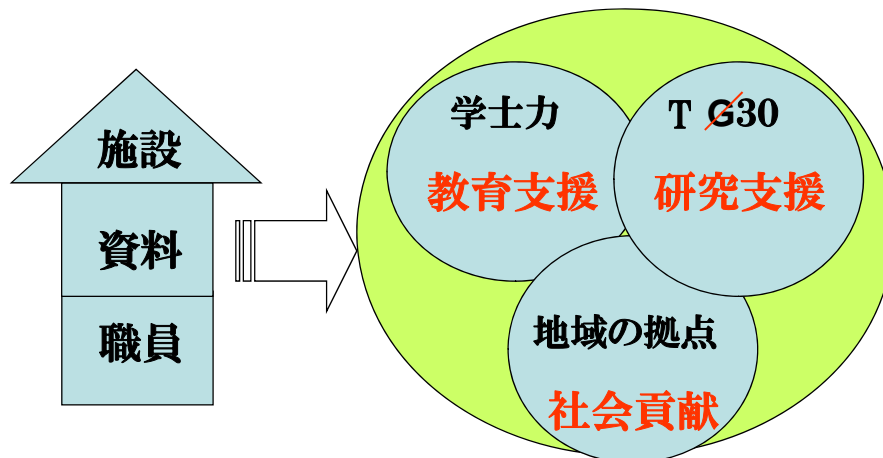
現代日本の大学改革と大学図書館 土屋俊(千葉大学教授)

(大学図書館は1980年代に始まったシリアルズ・クライシスに気づくことなく、1990年代の大学改革の要請にも応えることをしなかった。)

大学改革が要請する教育と研究改善を実現するためには、大学が改革されることを待ってはいけないのであり、大学図書館が教育と研究の環境を改革していくことが不可欠である。

図書館の存在感

図書館の三要素 構成要素から機能へ



図書館員の存在感

コアコンピタンスを担い、大学改革の当事者となる

- 経営戦略、マネジメント

アメリカにおいて、司書の大きな役割の一つは、
資金調達である

- 専門的レファレンス、主題専門業務

研究支援、教員との共同研究

- 図書館リテラシー教育

教育支援

トムソンサイエンティフィックが研究者とその研究成果を確実に結び付ける ResearcherID.com を開談 - Microsoft Intern...

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) 戻る 検索 お気に入り

アドレス(A) http://www.thomsonscientific.jp/news/press/pr_20080307/index 移動 Google 設定

トップ 会社情報 ニュース お問い合わせ サイトマップ

THOMSON 検索 検索方法

SCIENTIFIC 製品とサービス イベント サポート リソース EN:JP:CN:KR

● ニュース

プレスリリース
記事掲載情報
メールマガジン
更新情報

トップ>ニュース>プレスリリース 明治大学が日本の私立大学として初めて、Century of Science™を含む、Web of Science®へのフルアクセスを実現しました。

プレスリリース：
明治大学がトムソンサイエンティフィックのCentury of Scienceを導入

明治大学が日本の私立大学として初めて、
Century of Science™を含む、Web of Science®へのフルアクセスを実現しました。

米国ペンシルベニア州フィラデルフィア/英国ロンドン
2008年1月8日

明治大学が日本の私立大学で初めてWeb of Scienceへのフルアクセスを実現

トムソン社(Thomson Corporation、NYSE: TOC / TSX: TOC)の一事業部門で世界各国の研究機関や企業に情報ソリューションを提供しているトムソンサイエンティフィック(Thomson Scientific)は本日、日本の明治大学が年頭に購読を開始したWeb of Science®をさらに拡大し、Century of Science™を導入したと発表しました。同大学はCentury of Scienceへ投資を拡大し、1900年から1944年を網羅する最も重要な書誌情報および引用文献データへのフルアクセスを可能にしました。

ページが表示されました インターネット

スタート ADTEC (F) 2 Internet Explor... Microsoft PowerP... 21:16

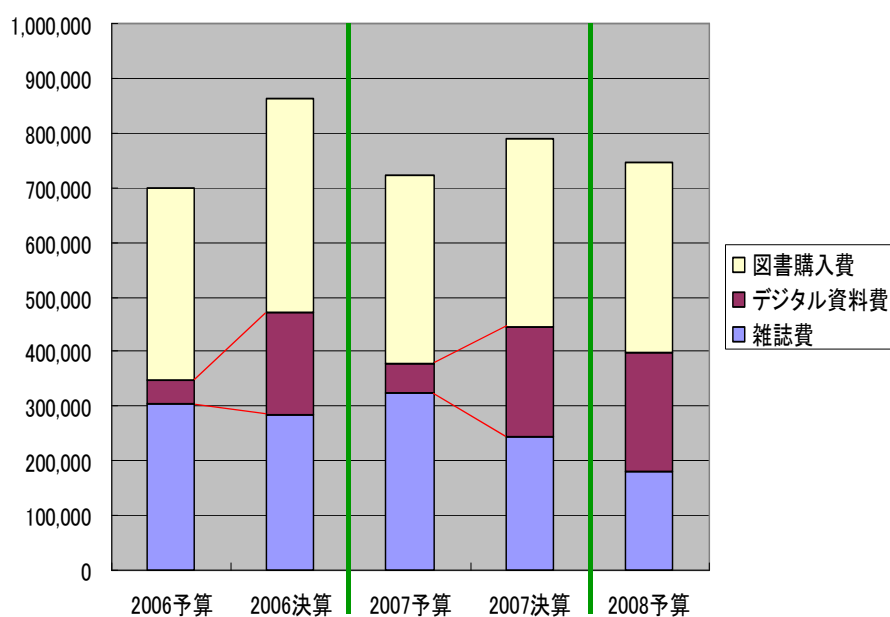
研究・教育基盤としての図書館の ファンディング・システム —国庫助成の取組みからの教訓— 藤江昌嗣(経営学部教授)

私立大学等経常費補助金(経常費補助金)

〇配点

「図書支出の増は傾斜配分率(調整率)の増加を通じて補助金の増となる。」

- 私立大学等研究設備整備等補助金(研究設備補助金)
- 高度情報化推進特別経費(教育研究情報利用経費)
電子ジャーナル、電子情報の教育研究への利用





(2008.7、集英社)

諸星 裕

(桜美林大学大学院教授・大学アドミニストレーション専修コース教授)

日本の大学をみると、職員に専門性を持った人間が非常に少ないことを痛感せざるをえません。優れた人材は多いのですが、ジェネラリストばかりで、**プロフェッショナル**がいない。これも**日本の致命的な欠陥**のひとつです。

プロの仕事、専門性の高い仕事をすれば、職員は教員対等に処遇されていくはずですが。

教員と職員はイコールパートナーである (明治大学・長堀守弘理事長)



明治大学図書館 <http://www.lib.meiji.ac.jp/>

図書館活用法

<http://www.lib.meiji.ac.jp/howto/application/index.html>

図書館活用法デジタルコンテンツ

<http://www.lib.meiji.ac.jp/howto/application/stream/C06850011.html>

Oh-o! Meijiシステム <http://oh-o.meiji.ac.jp/index.htm>

明治大学100コンテンツ <http://contents-edu.mind.meiji.ac.jp/>